

公益社団法人 益田市医師会

医療・介護の確保と連携推進の取り組み

益田圏域における課題解決に向けて



在宅を中心とした安心して住める環境づくり

<背景>

1) 医療・介護費の抑制政策

- ・長期入院の抑制、療養病床（医療・介護）の転換
- ・病床機能の再編、急性期高度医療の抑制、病院から在宅に、医療から介護に
- ・介護制度の変化

2) 高齢化に伴う医療・介護の課題

医療内容の高度複雑化、超高齢者の増加、認知症、独居、緩和ケア、終末期医療、看取り

3) 医師をはじめとする医療関係者の不足

医師の偏在、最西端にある地理的ハンディ、交通手段の問題

4) 中山間地などのアクセス困難地域の存在

益田地域独自の地域包括ケアシステムが必要!!

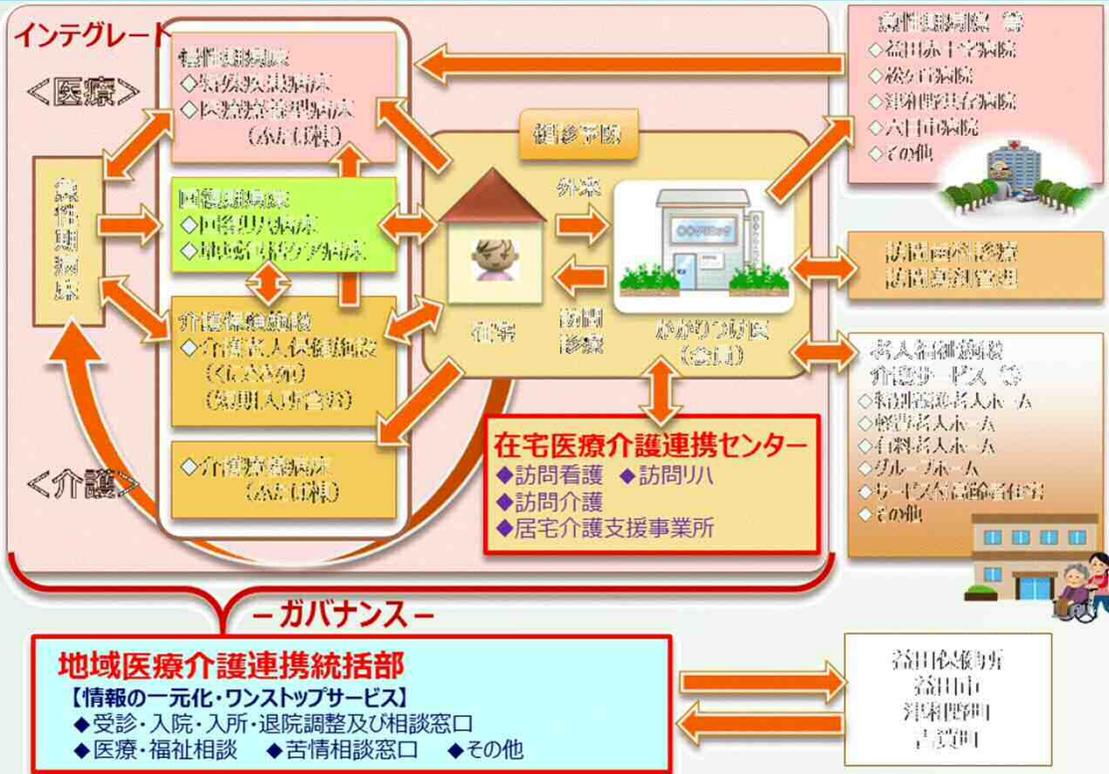
在宅を中心とした安心して住める環境づくり

益田市医師会のこれまでの主な取り組み

- **医療・介護推進プロジェクトの推進**（圏域の医療・介護資源の有効活用）
 - 在宅医療介護連携・研修センターの開設
 - 地域医療介護連携統括部の設置
 - 地域包括支援センター（東部・中部）受託開始予定（H30.4～）
- **医師会病院 病床機能再編**
 - 一般病棟57床を「地域包括ケア病棟」へ転換（益田赤十字病院との機能分担）
- **特定看護師の養成**
 - 看護師3名を地域医療振興協会、自治医科大学での特定行為研修に派遣

医療・介護推進プロジェクトの推進

公益社団法人 益田市医師会「医療・介護推進プロジェクト」イメージ図



H27.10 在宅医療介護連携・研修センター開設



- 3階：在宅医療介護従事者研修施設
- 2階：医療介護等人材養成施設
- 1階：在宅医療介護連携拠点



*在宅系サービスをワンフロアに集め、顔の見える関係で連携強化



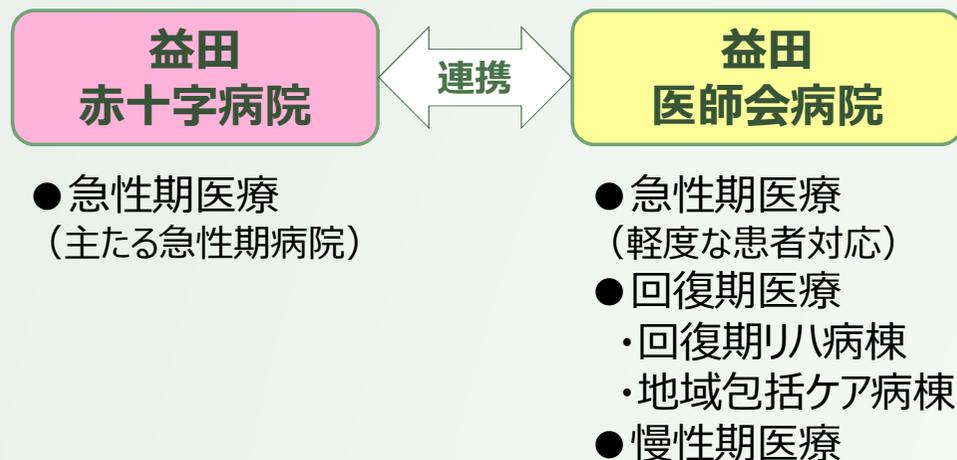
*地域の医療・介護人材の育成（シミュレータモデルによる多職種研修など）

H27.11 地域医療介護連携統括部 設置

- * 医師会機能の有効活用 と 圏域の病院、施設、行政等との綿密な連携
- * 情報の一元化、ワンストップサービスの提供
- * 医療・介護の壁を越え、病院から在宅へつながる療養環境を目指す

医師会病院 病床機能の転換

機能分担



[地域医療を守るための対策]

1. 医師の異動

医師会病院より医師2名（外科・消化器内科）の異動
*益田赤十字病院の急性期医療の強化（H27年）

2. 病床機能の転換

医師会病院の一般病棟1単位を地域包括ケア病棟に転換
（H27年1月 一般163床のうち 57床を包括ケア病棟へ転換）
益田赤十字病院は建替えに伴い急性期医療に特化（284床）

3. 医療機能連携協定の締結

医師会病院と益田赤十字病院の相互に有する機能を活用し、連携して適切な地域医療を提供することを目的とした協定を締結（H28年）・・・医療機器の相互利用、日当直の支援等

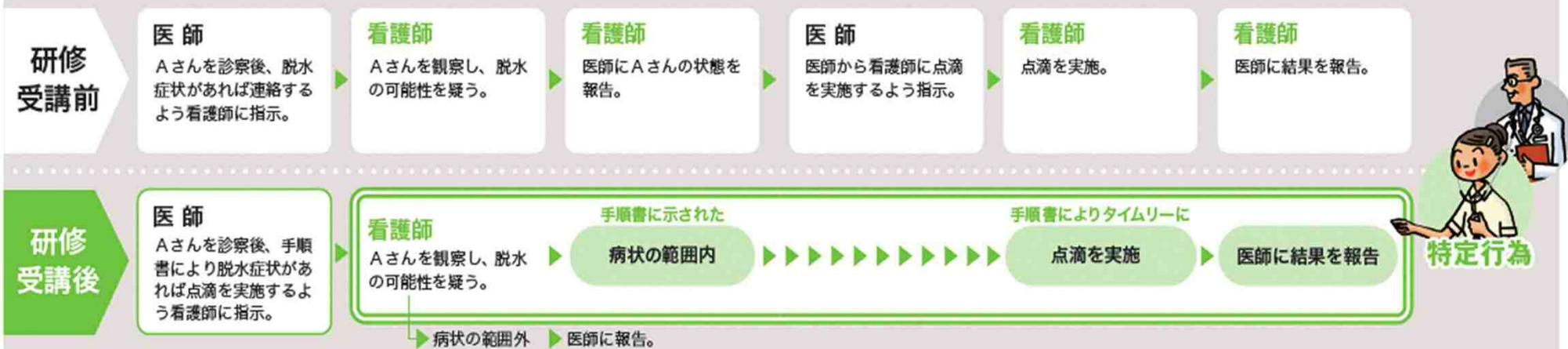
特定看護師の養成

益田地域の慢性的な医師不足に対応し、看護師として地域の医療ニーズに応えるために、特定看護師を養成する

- 1) 医師会病院内の勤務医の負担軽減
- 2) 看護師のキャリアアップとモチベーションの向上
- 3) 厚労省・日看協の方針に添った先駆的な取り組み
- 4) 療養病床、老人保健施設、訪問看護等での活躍を期待

医師の判断を待たず、手順書により一定の診療補助を行う特定看護師の養成が必要

▶ 研修を受けるとこのようになります 特定行為の実施の流れ (脱水を繰り返すAさんの例)



出典：厚生労働省ホームページより

益田市医師会 益田圏域医療・介護推進体制構築事業
平成29年度 しまね型医療提供体制構築事業（圏域課題解決推進事業）

益田圏域の課題を解決するための本事業での取り組み

- 1) 特定看護師の育成・活用
- 2) 医療機能分化・病床機能転換を進めるリーダー的人材の育成
- 3) 在宅医療の体験研修を通じた資質向上と従事者の拡大
- 4) 地域連携を担う実務担当者との関係強化

1) 特定看護師の育成・活用

① 取り組み概要

- 特定看護師がチーム医療のキーパーソンとして、医師の協力を得ながら看護師全体のマネジメントを行う院内の仕組みづくり
- 地域の実態に即した在宅も含めた医療現場において実践対応できる人材育成



• 実践で活躍する診療看護師を1ヶ月間招聘

(地域医療振興協会 筑井菜々子氏)

- 当院の特定看護師の実践訓練
- 医師・看護師双方の視点で、病院だけでなく在宅も含めた医療現場で安全性・効率性に配慮された医療を提供できる仕組みの構築

1) 特定看護師の育成・活用

②現在までの経過

- 8月より市内2診療所（津田医院、松本医院）にて外来診療や在宅診療に関わる特定行為研修を実施
- 8月～9月の1ヶ月間で、指導講師として地域医療振興協会より診療看護師を招聘し、現場での特定看護師の実践訓練・指導を実施。
- 9月7日、特定看護師の役割等の理解を図るため、活動報告会を開催



松本医院での在宅研修の様子
(訪問診療先にて)



特定看護師の実践訓練の様子
(中央が指導講師の筑井Ns、左が特定看護師の大石Ns)



特定看護師の実践訓練の様子
(超音波診断装置を用いた状態観察)



特定行為を行う看護師の働き方と役割
について活動報告研修会を開催
(講師は筑井Nsと当院の特定看護師)

2) 医療機能分化・病床機能転換を進める リーダー的人材の育成

① 取り組み概要

- 医療・介護推進プロジェクトの推進にあたり、地域の実態に即した医療機能分化、病床機能転換、地域包括ケアシステムの構築等、行政や地域の関係施設等と連携して推進していけるリーダー的人材が不可欠
- 先進地に一定期間派遣し、実際の業務に携わる中で先進事例を学び、医師会の中心となって関係機関等と協働し推進する人材の育成を図る



- 大阪・兵庫にて、エリア単位で医療介護連携・地域包括ケア等の先進的な取り組みを行っている社会医療法人愛仁会へ派遣。長期研修の実施

参考)
社会医療法人 愛仁会
エリア別 施設マップ



2) 医療機能分化・病床機能転換を進めるリーダー的人材の育成

②現在までの経過

- 8月～12月までの5ヶ月間、社会医療法人愛仁会の本部へ事務職員（課長）を出向させ長期研修を実施
- 8～10月は高槻地区の医療介護連携や地域包括ケアの推進など、同地区エリア統括部長の指導の下、愛仁会の関連施設だけでなく、同グループの社会福祉法人愛和会の関連施設も含めたエリアマネジメントの実務を研修
- 11～12月は千船地区・尼崎だいもつ地区にて、より実践に近い形での研修を実施
- 11月25日には、益田地域医療センター医師会病院において、中間報告として「益田圏域におけるエリアマネジメント」について発表



愛仁会本部にて幹部職員に対し、当地域へのエリアマネジメントの展開について発表



愛仁会 高槻エリアメンバーとの写真
※前列中央が当院棟課長、前列右側が指導責任者の坪統括部長



TQM発表大会での中間報告会の様子
益田圏域におけるエリアマネジメントについて発表

3) 在宅医療の体験研修を通じた資質向上と従事者の拡大

① 取り組み概要

- 圏域の医療機関・行政・介護施設等に所属する看護師をはじめ医療・介護従事者が、訪問看護等の現場で実際の業務を体験できる研修を実施
- 在宅での患者さんの状態や、それに関わる各専門職の役割を理解し、日頃の業務の振り返り等に役立てる
- 在宅医療の現場を体験することにより、在宅医療への垣根を無くし、将来の担い手の確保につなげる

② 現在までの経過

- 募集に対し、市内の医療機関・介護施設に勤務する看護師より研修申し込みを受け、益田市医師会訪問看護ステーションにて研修を実施（病院看護師は1日コース、介護施設看護師は2日コース）
- 研修実績（9月～12月に実施）
 - 益田地域医療センター医師会病院より 1名（手術室勤務／特定看護師）
 - 益田赤十字病院より 8名（病棟勤務／看護師）
 - 市内デイサービスより 1名（看護師）

4) 地域連携を担う実務担当者との関係強化

① 取り組み概要

- 医療依存度の高い患者の在宅療養へのシフト、また必要に応じた入院治療のサイクルを円滑に進めるためには、医療機関や介護施設の連携を担う実務担当者の役割が重要である
- 入退院や転院の業務を担う実務担当者が集い、互いの機能向上とFACE TO FACEの関係を構築することにより、各施設間の連携や役割分担を積極的に推進し、地域包括ケア病棟や回復期リハ病棟など特に連携が必要な病床の有効活用に繋げる

② 現在までの経過

- 10月5日に医師会病院にて、圏域の5病院・1有床診療所の地域連携・入退院調整担当による第1回の連携会議を開催（担当者16名が参加）
- 1月25日に第2回目を開催（圏域5病院、担当者11名の参加）
- 今後も担当者同士の関係強化のため、定期的な連携会議や研修会の開催を予定している